
博士の守護者

朧月朱狐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

博士の守護者

【Nコード】

N9364Y

【作者名】

朧月朱狐

【あらすじ】

誰にも愛されたことがなかった少女は神様に会い、トリップする。トリップした先は、生前愛読していた「家庭教師ヒットマンREBORN!」の世界だった。頼んでもいないのに神様からチート能力を貰った少女はトリップしてもまた愛されることはなかった、そんな時一人の博士に出会い世界が変わる。

プロローグ

いつも通りの日常だった。

朝起きて、学校に行つて、部活には入っていなかったからそのまま家に帰る。

たまに違うといえば、本屋に行つて好きな漫画や小説を発売日に買っていくだけ。

今日は好きな漫画の発売日だった。

学校帰りに寄り、数冊の漫画を買った後は、早く読みたくて足早に家に帰る。

家に帰つて、買った漫画「家庭教師ヒットマンREBORN！」を読む。

今は丁度継承式編のど真ん中だった。

週刊誌の方も読んでいるから、買つても内容は分かっているけど、でも面白いから読み返す。

「早くアルコバレーノ編に入らないかな？」

継承式編に不満を持つわけではないが私の好きなキャラがアルコバレーノ編でたくさん出てくるからだ。

よく好きなキャラクターランキングではこのキャラに投票している。

「ヴェルデ博士まだかな」

そう、私は緑色のおしゃぶりの持ち主、ヴェルデが一番好きなキャラなのだ。

別に他のキャラが嫌いな訳ではなく、ただ単純にヴェルデが好きな

だけである。

よくPCで見るトリップまではいかないけど、思ってしまった。

「博士に会ってみたい」

買ってきた漫画を全て読み終わり、読みかけだった本を読む。

それで私の一日が終わる。

毎日と変わらない日常を繰り返して、ある日の帰り道だった。

いつも渡る信号で待っていたときだった。

ここは学生も使う通りのためちらほらと中学生やら他校の学生の制服が見える。

友達と帰る者が大抵の風景、私にはそんな事は関係なかった。

それでも見えないように、鞆から持ってきていた読みかけの本を開く。赤になっていた信号が青に変わる。

私はそれを確認して、本を閉じずそのまま本を読みながら信号を渡る。

ここを渡ればすぐに私の家に着く。

そう思っていた。

だけど

キキイイイ

ブレーキのきる音がした。

顔を上げたときに見たのは目の前まで迫っていたトラックだった。

ドンッ

身体にすごい衝撃が走った、次に感じたのは浮遊感だった。

それもすぐに叩きつけるような衝撃に変わった。

自然とそんなには痛くは無かった。

ただ寒い、と感じただけだった。

呆然としているのか自分が今置かれている状況が分からなかった。

「おい、女の子が轢かれたぞ」

「だれか救急車呼んだかつ」

周りの人の声が聞こえた。

ああなんだ私、轢かれたんだ。

痛みも無い身体、ただ寒いと感じる身体。

そして聞こえた言葉にも冷静な思考。

すぐにその答えが出た。

私は死ぬんだ。

不思議と生きたいという思いは無かった。

それもそうだろうと思った。

日頃の自分は生きながらに死んでいるような人間だった。

唯一の娯楽だったのが漫画やPC、本だけだった。

それに自分が生きていて喜ぶ人間もない。

心のどこかでほっとする自分がある。

ようやく死ねると。

「こっちです、早く！」

「おい、君大丈夫か!？」

救急隊員が来たようだけど、私の身体はもうもたない。

意識が朦朧としてきた。

見えていた景色がぼんやりと霞んできた。

もうこれで最後だと感じる。
もし、もし最後に心残りがあるとすれば

ヴェルデ博士に会いたい。

それしかなかった。

叶わないと思っても漫画から見れるだけどよかった。
でもそれももうできない。

私は、もうこの世界がいなくなる。

即死じゃなかったのがあれだったかな。

本当もう意識がなくなってきた、目も霞む。

その日、一人の女の子がトラックに撥ねられ死亡した事故がニュースなので放送された。

プロローグ（後書き）

初めて投稿しました、ちょっとトリップの王道風に仕上げてみました。

書いていて、あっグダグダと思いつつも書いていて楽しかったですし
あらずじはこんなのでいいのかと思いつながら書きました。

ここで一つ、チート能力を貰っていますですがそれは後々、博士につけてもらおうという

形で成り立っているのもありますので、最初から使えるチートと後から使えるチートに分かれていますので、そのところよろしくお願
いします。

ここまで読んでくださってありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9364y/>

博士の守護者

2011年11月28日00時02分発行